

みこころ



カトリック松山教会
〒790-0003 松山市三番町四丁目 5-5
TEL 089-921-1849 FAX 089-921-2109
ピーター・ジャ・レ神父 O.P

発行 広報活動委員会

復活の喜びと平和

主のご復活おめでとうございます。

復活の喜びと平和が信者の皆さんに豊かに注がれるよう、また、信者の皆さんがイエス様の新しい永遠の命に与れるよう、お祈りいたします。

そして、慈しみ深い神様がその命の道に、全ての人を導いてくださるよう、お祈りいたします。



カトリック松山教会
担当司祭
ピーター・
ジャ・レ神父 O.P

復活祭の日、私たちは主イエス・キリストが復活され、生きておられ、私たちと共に生きておられるという良い知らせを伝えています。

キリスト信者であって、主イエス・キリストに忠実に従うように頑張っている私たちは、喜びと希望に満たされますようにと願って復活祭を祝っています。

私たちは、「イエス・キリストは復活された！」と言って、その福音を家族や他の人々と分かち合い、その良い知らせを私たちの心に平和と希望をもたらして、復活祭のお祝いを幸福で満たしますようにと祈りながら祝っている時期です。



私たちは今、「希望の巡礼者」という聖年の真っ只中にいます。

世界は希望を必要としています。

特に、貧困、病気、罪のない苦しみ、愛する人の死、自然災害、経済的圧力、戦争、迫害など、苦しみによって世界中に希望を必要とする人々が大勢います。

私たちから遠く離れた場所で起きていることではありませんが、それでも私たちの兄弟姉妹の生命は脅かされています。

ですから、私たちの小教区や共同体を通して、霊的、祈り、物質的な支援をしてくださっていることに感謝したいと思います。この復活祭のお祝いが、神とその民に対する

る私たちの献身を活性化するのに役立ちますように。

復活祭のメッセージは「主イエス・キリストは復活された。生きておられる！」という気持ちに胸に刻み、愛は死よりも強いという希望で、私たちの心が満たされますように。

Happy Easter to you all!

教皇フランシスコ

ご帰天

敬愛する牧者であった教皇フランシスコは、ローマ現地時間4月21日午前7時35分（日本時間 同日14時35分）、88年にわたる人生の旅路を終え、御父のもとへと旅立られました。



帰天
教皇フランシスコ



教皇フランシスコの永遠の安息を共に祈りいたしましょう。



ジャ・レ神父様とブ・リン神父様より洗礼の秘跡を授かりました。



祝・幼児洗礼式

2月9日・
16日

カトリック松山教会で、幼児洗礼式が行われました。幼児洗礼を受けたのは、うえたルリちゃんと出田 実乃梨ちゃんの2人です。私たちが共同体の信徒として加わりました。

うえた ルリちゃん
令和6年10月18日生
洗礼名
シエナのカタリナ

出田 実乃梨ちゃん
令和6年10月17日生
洗礼名
マリア・インマクラタ

この洗礼の秘跡によって、新たに生まれる、この子が、神の祝福のうちに、成長し、教会の力強い一員となりますように。ご両親・代母の方々が生活と教育を通して、



父・出田 和希さん
優しい子供で、いろんなことを吸収して、いろんなことを知ってほしい。
元気に成長してくれたら良いと思っています。
母・出田 悠梨子さん
洗礼名を頂いたので、清い子に育ってもらいたい。今後ともよろしく願います。



父・うえた わたるさん
主の道(教え)がわかるように、皆さんから、愛され、親しまれる子供に育ってほしい。
母・うえた ジュリアさん
カトリック信仰を大切に人の気持ちがわかる、明るい子供に育ってほしい。



この子の信仰の模範となる
ことが出来ます様に。
今日、洗礼式に預かり、私たちの恵みを思いおこし、心を新たに、信仰の恵みに応える



ペトロ
山本 民雄さん
83歳
担当司祭
ピーター・
ジャ・レ神父O.P
ラファエラ
鈴木 喜代子さん
75歳



キリストに結ばれ、主の受難と復活の証人となり、キリストのからだをたてるために、愛と信仰を持って、生きる人となってください。
聖霊は、五十日祭の日に主イエスから遣わされて使徒の上に下り、また、使徒とその後継者によって、新たに、洗礼を受けた人々に注がれました。
あなた方も今、約束された、この聖霊を受けて、いっそう深く

堅信の秘跡

3月16日

2人の方が、堅信の秘跡を授かりました。
あなた方は、キリストにおいて新たに生まれ、キリストの祭司職にあずかる民に加えられました。

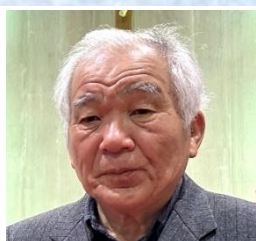
鈴木 喜代子さん あいさつ



皆さま、やっと、カトリック松山教会の一員になることができました。ご聖体を頂けるなんて嬉しいです。

天におられる、白石シスターも「やっと帰ったかな」と言ってくれている気がしました。みなさん本当に親切にしてくださいありがとうございます。これからも、頑張つて、砥部の町から来ますのでよろしく願います。

山本 民雄さん あいさつ



今日は、本当にありがとうございました

私が27歳の時に聖カタリナ高校に教鞭をしてから50年以上経ちました。

教会の門の前で、行ったり、来たりして、中々入れなかったのですけれども、去年入ることができました。門をくぐることができました。まだまだ、わからないことがありますが、皆様の力をお借りしまして、もつと信仰を深め高めていきたいと思ひます。よろしく願ひします。

復活の聖なる徹夜祭

祝・洗礼式

4月19日

おめでとうございます。復活の聖なる徹夜祭の日にカトリック松山教会で、洗礼式が行われました。洗礼式を受けたのは、門屋 周作さん53歳です。洗礼名は、ヨハネです。

私たち共同体の信徒として加わりました。代父として、パウロ 松下 謙二さんが、洗礼に立ち会いました。

ジャ・レ神父様より洗礼の秘跡を授かりました。



ヨハネ
門屋 周作さん



愛と信仰に生きる人となつて下さい。あなたは、キリストの光をもたらす者となりました。主イエス・キリストが来られるとき、すべての聖人と共に喜んで主を迎えることができるよう、いつも光の子として歩みなさい。

門屋 周作さん あいさつ

若い頃は、放蕩息子のような生活を送っていました。当然の報いとして破産しました。30代、中ごろのことでした。人生に疲れ果てた僕は、聖書を読んで慰めを受けるようになりました。間違つた価値観で生きてきたことを知りました。そこには、回心して父親のもとに戻れば、過去の罪が許され、温かく迎え入れられると書いてありました。

新しく生まれ変わって、幸福になりたいと思ひました。「疲れたもの、重荷を背負うものは、誰でも私のところに来なさい。」「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」というイエス様の言葉を頼りに、50歳の節目の年に、思い切つて松

山教会の門をたたきました。

その時、ジャ・レ神父様に洗礼を受けたいとお願いしました。一年半が経ちました。復活の聖なる徹夜祭の日、洗礼を受けることができました。

感謝しています。

それから、代父の松下さんに指導して頂き、ありがとうございました。

親切に接して下さいる教会の方々に感謝しています。これからもよろしく願ひします。

復活祭の卵



4月19日

新たな命を生み出す、復活祭の卵を準備しました。イースターエッグが、一人一人に手渡されました。



主の復活・アレルヤ



4月20日

復活祭のミサには200人以上の方が参加。

ミサ後、「お祝いパーティー」とブ・リン神父様、「新居浜教会へ行ってらっしゃい会」を開催。



プレゼントは観葉植物です。松山教会の皆さんと思って、優しく愛情たっぷり込めて大きく育ててください。

ブ・リン神父あいさつ
私もまだ、松山教会の信者さんたちのために何もしていません。100%思っています
新居浜、距離たいたことないです。全然遠いかということありません。未来のことは誰も分からない。松山教会に戻る可能性もありますので、一年間ではありましたが有難うございました。皆さんあと戻ってきます。



ベトナム青年部の歌や信徒のギター演奏、チエエコレ体操をして、皆さん親睦を深めていました。



四旬節黙想会

四旬節の黙想会を終えて

寅岡 恵

3月23日

3月23日のミサ後、「二人ひとりの召し出しを生きる」というテーマで、カトリック丸亀教会の高山 徹(あきら)神父様による黙想会が開かれ、60名以上が参加しました。



カトリック
丸亀教会
高山 徹 神父



2018年3月21日にアシジのフランシスコ高山 徹助祭が司祭に叙階されました。この年の7月8日カトリック松山教会で初ミサを行って以来7年ぶりに皆さんとお会いします。

「人が幸せに生きることの根本、シノドスの教会の基盤。イエス様のご受難とご復活を通しての、弟子たちの体験。幼稚園で、「チャプレン」として働かせていただく中で、いつも子供たちや先生方にお話します。実は「誰ひとり同じ人はいなくて、それぞれちがう、でも、「あなたはあなたで、素晴らしい」のです。「二人ひとりの存在の意義」召し出しを生きるとは、他でもない、この欠点も強さも合わせ持つ、かけがえのない私を十全に生き抜くことです。」

その中で心に残ったのは、「誰ひとり同じ人はいない。」「一人ひとりが素晴らしい。」という言葉です。また、「君のかわりは、どこにもいない」の絵本を読んで下さり、一人ひとりが、かけがえのない存在なのだというメッセージを受け取りました。



高山神父様が忘れられない言葉として、「人は遅いと言われても、鈍いと言われても、その人らしく誠実に歩めたら、それでいいのだよ。」と、亡くなった、溝辺司教様から頂いた言葉でした。

高山神父様が、大陸別のアジアシノドスに、若手司祭代表として、出られた時の話や色々な写真も交えて話してください、とても有意義な時間でした。「召し出し」というと司祭や修道者になることのように思っていました。が、神様が自分に何か呼びかけておられるのか、それに応えることを望んでいるのか、自分を見つめ直し、祈り、そして、精一杯生き抜くこと。それが一人ひとりの「召し出し」を生きることだと感じました。シノドスの教会の目指すところも同じです。一人ひとりの存在の意義を大切に、認めあい、ともに歩んで行きましょう。

キリスト教一致祈祷会

カトリック松山教会

松下 謙二

1月25日

キリスト教一致祈祷会が1月25日（土）聖パウロの回心を祝う日に、カトリック松山教会で開かれました。

一致祈祷会には、カトリック松山教会、カトリック道後教会、日基督教団松山・山越教会、道後バプテスト教会より、カトリックから41名、プロテスタントから11名合わせて52名が参加。



2025年キリスト教一致祈祷週間
1月18日-25日



あなたは、このことを信じますか
(ヨハネ11:26参照)
Do you believe this?
(John 11:26)

2025年のテーマは、ヨハネ福音書11章26節から

「あなたは、このことを信じますか」

西暦325年に、ニケアで最初の公会議が開かれたから、今年が1700年目にあたることを記念する内容であります。

信仰に関する重要な問題や混乱が起こった時に開催されるのが公会議であるが、最初の公会議であるニケア公会議では、何が議論されたのか。



異なる教派から集まった私達は、復活のロウソクを灯し、共にニケア・コンスタンチノープル信条を唱え、共通の信仰を祝った。

ドミニコ修道会の神父、川上神父様のお話によると、最も重要な問題は、イエス・キリストの本性はどのようなものか、イエスは、まことの神なのか、それとも単なる人間なのか。

私たちは今、まことの神でありながら人間とされたイエス・キリストを信じているが、このニケア公会議から始まり、西暦381年のコンスタンチノープル公会議までの論争を通して決議されたこととであった。

ヨハネ福音書11章17節〜27節のイエスのことば。

「わたしは復活であり、いのちである。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」という問いに、ニケア・コンスタンチノープル信条の宣言の冒頭「わたしは信じます。」が応答となっているという川上神父様のお話であった。



川上栄治 神父



地震・火災避難訓練

地域ネットワーク委員

2月2日

2月2日 ミサ終了後に地震と火災の二つの訓練が行われました。ミサに参加した80人の信者の皆さんに協力して頂きました。地震が発生した際の対処方法として、その場から動かず落ち着いて、揺れがおさまるまで、その場にしゃがんで、カバンや座布団で頭を守って下さい。



火災が発生した際の訓練では、実際に警報を鳴らして、地域委員の誘導により、正面入口より階段下の駐車場まで避難誘導訓練を行いました。けがをした人やお年寄りを教会から運び出す方法。



1人は、傷病者の両脇下から両腕を差し込み、片腕の手首と肘のあたりを握る。もう1人は、両足の内、片足を交差して持ち上げる。

地震の場合の避難場所は番町小学校です。

消防・救急車の手配。119番に電話してください。松山市三番町4丁目55。カトリック松山教会です。3の4の55と覚えてください。消火訓練では、四国消防の芳野さんの指導で消火器の使い方、消火の仕方の講習を受けました。実際に3人ずつ消火を行い、すべての避難訓練を終了しました。



消火器は1階の信徒ホール・駐車場・事務所前などに7本、2階の礼拝堂準備室・厨房内などに6本、3階の階段口などに2本、4階の階段口に1本設置しています。実際に災害にあった時、自分の身を守り、さらに体の不自由な人にどう接して、皆さんに協力を呼び掛けるか、自助・共助・互いに助け合うことです。必要なことは、普段からの訓練しか得られないと思います。今後も、この様な訓練を定期的に行い、皆さんと一緒に、大切な命、私たちの教会を守っていきましょう。

えひめダルク

セミナー

2月15日

カトリック松山教会

岩本 麻里子

2025年2月15日(土曜日)

カトリック松山教会のカトリックセンターで「私、やりすぎ? はまりすぎ? 誰かおしえて!」をテーマにセミナーが会場とオンライン参加で開催されました。今回も講師は、大阪ダルクの倉田 めばさんをお迎えしました。



倉田 めばさん、尾道市の出身。

大阪写真専門学校を卒業。

1993年フォトグラファー

をやめ、薬物依存回復施設「ダルク」を設立。メンタルヘルス・ソーシャルワーカー。パフォーマンス・アーティスト。

現在、オンラインでの「OD倶楽部」(グループミーティング)を開催しています。

セミナーではオーバードーズ(処方薬・市販薬の過量服用)、自傷、ひきこもり、摂食障害など、生きづらさを抱えている人たちについてお話を聞きました。私たちは社会と関わりを持たずに生きていくことが難しい現実の中で「社会」に適応しなくてはいけないと教えられ、それを求められていると感じています。でも適応できない自分自身を認められない葛藤があり、その苦しみを少しでも和らげる手

段として、薬の過量服用などの行為を繰り返してしまふことが起きているとわかりました。

それらの行為は「生きていくための手段」の一つになっているのだと思いました。ありのままでは「社会」に受け入れてもらえないと感じている人たちが

がいる、それを「我慢が足りない」と

言ってしまうのは簡単かもしれないけれど、

本当にその「我慢」は必要なのかと感じました。「ありの

まま」と「わがまま」をどう区別し

たらいいのかと考えました。そして、

生きづらさを抱えた人と接する時、

私たちは教え諭することなく、その人

が「素」のままでもいられるように接

することが必要と言われました。

私たちはシノドスの質問の中で「あ

なたは誰と共に歩みますか」と問わ

れています。生きづらさを抱え、自

らを傷つけるような行為を繰り返

しながらも「生きる事」を選び続け

ている人たちと共に歩むのは、この問に対する一つ

の「選び」となるのではないと思いました。

今、生きづらさを抱えている人が安心できる居場所

が必要なのだと思います。

めばさんは「依存症」などに関わる人だけでなく、

誰にとっても「気づき」のあるお話しをされたと思

います。これからもえひめダルクセミナーを通して、

あるいは実際に関わりあつて共に歩む関係になれ

たらと思います。

た



ベーデン・パウエル 生誕記念ミサ

2月23日

ガールスカウト愛媛県第1団
ボーイスカウト松山第10団

濱田 俊三

2月23日に恒例のボーイスカウト、ガールスカウトの創始者である、ベーデン・パウエル夫妻のお誕生日を祝う、B P祭を教会で行う事ができました。



創始者

ロバート・
ベーデン・パウエル

1857年
2月22日生

夫人

オレブ・
ベーデン・パウエル

1889年
2月22日生

ボーイスカウト松山第10団からは30人、ガールスカウト愛媛県第1団からは10人余りが、まず、ごミサに参加しました。スカウト活動の原点に立ち返り、スカウト精神のなんたるかを新ためて思い起こす良い機会を得ました。ごミサを担当された稲毛神父様は、お説教の中でベーデン・パウエルが書き残した、最後のメッセージを引用され、見事にスカウト精神の何たるかをしっかりと説明されました。



稲毛 神父



『幸福を得る本当の道は、他の人に幸福を分け与える事にある』また、スカウトのモットー『備えよ！常に』についても言及され、幼いスカウトたちにもわかるように噛み砕いて説明されました。



ごミサの後、カトリックセンターに移り、ベーデン・パウエル夫妻への献花に続き、顕彰菊章、富士永久章をふたりのスカウトに授与する式典を行うことができました。

トルコに近いアルメニアからたまたま来られていた友人を紹介でき、楽しく、歌などで盛り上がりました。

スカウト達にこのような機会をいただいた事、また、50年以上に渡り、スカウト活動にご理解並びにご尽力頂いている教会の皆様深く感謝いたします。

ローマからの手紙



昨年の7月まで松山教会で司牧実習をしていました、ドミニコ会の山口 聖智神父です。

昨年1月20日に台湾で叙階され、2月18日に松山教会で初ミサをさせていただきました。



ワシントンDC

あれから一年が経ちました。皆さんのことを思い出しながら手紙を書いています。教会法の勉強のためにローマに来て、半年が過ぎました。いま大学での最初の学期を終え、これならなんとか行けそうだという感触を持っています。目下一番の課題はイタリア語を使いこなせるようになることです。これまで苦労したのは勉強のほうよりもむしろ大学の中にあるドミニコ会大修道院の人間関係の方です。西洋人社会の中で相当揉まれました。始めは偏見や誤解があったと思います。今は兄弟たちと信頼関係ができてきたと思います。確かに、私自身にも、兄弟たちにも、弱さがあります。人間関係に、いじけたり、逃げたり、媚びたりせず、誰に対しても公正であるようにしています。時には苦しみますが、結局はこれが一番強いようです。教会法の授業では、教授たちは具体例を挙げながら法律の説明してくれました。一年もありませんでした。松山教会の司牧実習では、嬉しいこと、悩んだこと、たくさん経験させていただきました。

幸いなことに私の引き出しの中にはたくさん思い出しや具体的な案件がしまわれています。思い出しながら法律の勉強をしています。今振り返ってみて、みなさんと出会うことができて宝物の一年だったと思います。今年の夏はイタリアのどこかの田舎で、主任司祭がバカンスに行っている間の代理司牧をしようかと考えています。

修道院や大学の中だけで、まだイタリアの本当の人情というものを知りません。いい言葉の練習にもなると思います。来年か再来年になるかと思いますが、次回、帰国の際には松山にも参ります。少し先になりますが、それまでみなさんどうぞお元気でいらしてください。松山のみなさまが懐かしいです。

成人のお祝い

2025年1月19日(日曜日)ミサの中で、
3人の成人(20歳)の祝福が行われました。

1月19日



マリア・マヌエラ
杉浦 桃子さん

グエン・ティ・
フエンさん

グエン・ティ・
ホアさん

ジャ・レ神父様から祝福のお言葉
「晴れの成人式を迎える皆さんおめでとうございます。あなた方は、今日から責任ある社会人として、新しい人生の道を歩み始めます。この時に、もっとも尊い賜物である生命を与えて下さった神に感謝するとともに、人生の終始、紆余曲折において、神様が私達を守り、導いてくださるよう祈りましょう。」全能の神、主イエス・キリストよ、新しい人生の準備が始まる、この人たちの上に、祝福を注ぎ助けとなる、聖霊を送ってください。知恵と理解、判断と勇氣、神を知る恵み、神を愛し、敬う心をお与え下さい。」と述べられました。

マリア・マヌエラ・杉浦 桃子さん



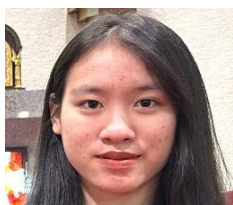
お母さんに対して、ここまで育ててくれて本当にありがとう。という気持ちです。カトリック松山教会の皆さんには、小さいころからお世話になりました。

教会の皆さんと家族と神様に見守られて、ここまで育ったと思います。今日という日を迎えられて本当にうれしく思います。最高です。
グエン・ティ・ホアさん



ベトナムにいる、お父さん・お母さんありがとう。日本に来て2年です。成人ミサを行ってくださり感謝しています。

これから、楽しいこと、辛いこともあると思いますが、責任を持って自分の将来に向けて頑張ります。
グエン・ティ・フエンさん



私は12歳の時に、お父さんが帰天し、お母さんが苦勞して4人の兄弟姉妹を育ててくれました。成人の祝い本当にありがとう。

日本に来て家族と離れ、心配事はたくさんありますが、仲間とカトリック教会の皆さんと出会って、幸せで楽しんでいきます。成人ミサを行ってくださりありがとうございます。

この日は、ミサ後に、手作り品販売やゆうあい喫茶、餅つきが行われ、みなさん小さな交流ができました。

手作り品販売

手作りの縫いぐるみ人形・

手作り布きんなど

使徒献金・手芸クラブ9万円

ゆうあい喫茶

コーヒー・紅茶・ジュース・

カルピス・りんご

使徒献金・ゆうあい喫茶

2万9千円

餅つき

ジャ・レ神父様、初めての餅つきを体験しました。

使徒献金・餅つき1万1千円

信徒の皆さま、ご協力ありがとうございました。

●帰天者(3月現在)

1/9 テレジア 二神 絢子さん(84)

3/3 マリア・マグダレナ

福住 増子さん(73)

3/29 ドミニコ 長島 宏さん(90)

●転出者 藤本 昇さん

●転入者 なし

○マグニチュード7.7

大規模な地震

5月18日まで

ミャンマー地震募金

ご協力お願いします。

